



木もれびの森の森の虫たち（13）

啓蟄もとつくに過ぎ、虫たちも活動を始めるころですが、まだまだ目にとまることはめったにありません。土の中や朽木の中でじっとしています。虫たちには大迷惑だったと思いますが、暖かかった日の昼間森にある朽木の中を覗いてみました。ダンゴムシは丸くなったまま、クチキムシ、ナミギセル、甲虫の幼虫類、コメツキ、ムカデ類、などいろいろ観察できました。一番迷惑だったと思いますが、休眠中のコクワガタを起こしてしまったことです。勘弁して下さい。今年もいろいろな虫たちとの出会いを楽しみたいと思います。（海野）



シロアリ



ダンゴムシ



ナミギセル



甲虫の幼虫



コクワガタ



ムカデ類



キマワリの幼虫



クチキムシ



コメツキ

木もれびの森の樹木

ウグイスカグラ（スイカズラ科スイカズラ属）

こもれびの森で、春一番に咲きだす木の花はウグイスカグラです。今年はなんと1月に咲き



始めました。まだ冬なのに、もう待てないという感じです。花の写真を



ください。背景はまだ冬枯れの景色です。春を待ちわびた私たちにとっても森の植物にとってもうきうきとする光景です。3月には花盛りになります。鶯が鳴き始めるころに花が咲くからとか、鶯が神楽を踊る舞台に見立ててとか、その名の由来にはいくつかの説があります。多くの花をつ

けている株を遠くの方から見るとピンクの小鳥がそれぞれ好き勝手な方向を向いて踊り遊んでいるようにも見えます。果実は5月ごろに赤くなり、口に入れるとほんのり甘みがあります。野鳥たちにとってもごちそうなのでしょう、すぐになくなります。もしかして、野鳥ではなく人間が味見をしているのかもしれませんがね。こもれびの森で実施している市民参加の「ゆっくりウォーキング」の時にも、ウグイスカグラはその花も果実も人気者です。冬枯れの時期、叢生（群がって生えること）



した幹に、つばがついているものをよく見かけます。ウグイスカグラの葉柄の基部が残ってこのような姿になるのです。（鳥飼）

木もれびの森の外来種植物（6）

昨年度に引き続き今年度も外来種植物を掲載することになりました。今年は桜の開花が昨年より各地で2・3日早く咲いたとか木もれびの森でも開花が早まるのではないかと期待して待っています。花の場所は緑道を学校に向かって左側の森(右は中央緑地)で民家の近く、ウラシマソウ・ユリノキが自生している近くで昨年撮影しました。民家と並行して最近杭が打たれ整備された散策路の並びに今年も咲いています、見てください

ヒメリュウキンカ(姫立金花)

- ・原産地(イギリス)
- ・キンポウゲ科キンポウゲ属
- ・多年草・花茎(5cm～10cm)・花期 3～4月

湿った所に生育、春に花茎を伸ばし表面に光沢のある黄色の花を次々と咲かせ長いものでは1ヶ月ほど花を楽しむ事が出来る。

最近木もれびの森でも花を見かけるようになりました。黄色で可愛い花なので家庭で育てられたのが森に捨てられ増えているのではないのでしょうか。

リュウキンカの花は高山の湿地帯や池や沼に早春に黄色い花を咲かせ、茎が立って金色の花を咲かせるところから立金花と呼ばれ、この花に似て小さいのでヒメがつき、ヒメリュウキンカとよばれています。

夏には葉が枯れ地中に根茎を残し夏季は休眠する。葉は心臓形で濃い緑色。（田崎）



博物誌は「NPO法人相模原こもれび」のホームページ
(<http://www.npo-komorebi.com/>)に掲載されています